

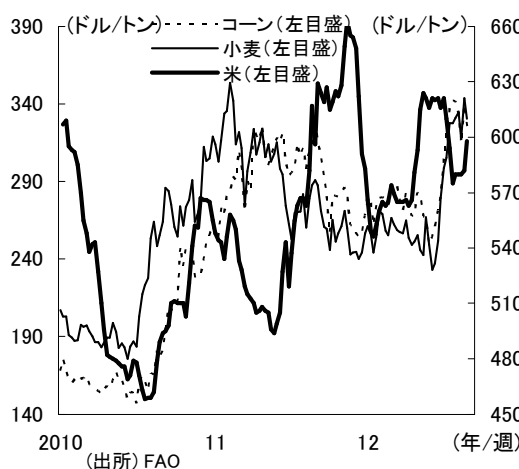


タイも旱魃

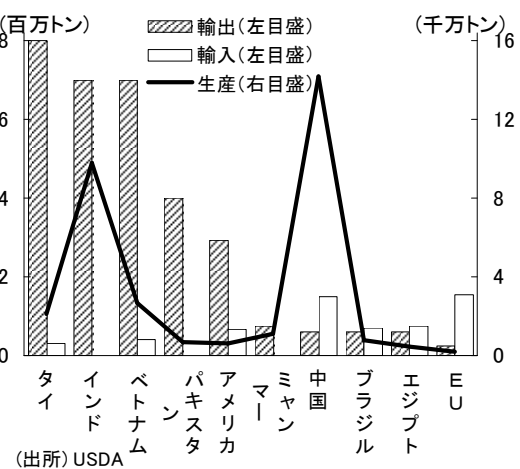
～ コメも需給逼迫懸念 ～

- (1) 6月から値上がりした小麦やコーンを追って8月半ば以降、コメ価格が急上昇（図表1）。昨年来の推移をみると、まず昨秋、タイ洪水で急騰。事態沈静化を受けて昨年末から値下がりした後、本年4月半ばから再び上昇。2月から始まったタイの旱魃が材料視。もっとも、4～5月の降水量が例年並みに戻ったことが判明すると、7月初をピークに値下がり。しかし8月に入ると反転上昇へ。ただし、8月末でもトン当たり598ドルと600ドル台に未達。本年7月初のピーク同621ドル、昨秋のピーク同655ドルに比べれば低水準。
- (2) タイは、中国やインドに比べて生産量は大幅に少ないものの、輸出量では世界最大（図表2）。一方、世界第2位のコメ輸出大国インドでは今年、北部を中心とした旱魃により収量減懸念が台頭。昨年の洪水でタイ輸出が減少したものの、インドが増産し輸出増で穴埋め。タイ、インド両国が旱魃に直撃された場合、世界のコメ需給逼迫は不可避。
- (3) タイの穀倉地帯は中部と北部、北東部。中部は総じて平年並みの降水量。それに対して、北部と北東部では6月以降、一昨年、2010年を上回る旱魃（図表3）（図表4）。まず北部をみると、チェンライなど山岳地帯では平年を上回る降水量に恵まれているエリアも一部あるものの、ナコンサワンやピッサヌローク、チェンマイなど平野部では6月、8月とも平年を大幅に下回る降水量。北東部でも国境近くのウボンラーチャターニーなど山岳地帯では8月、平年を上回る降水があったものの、コンケンやスリン、ウドンターニなど中央エリアでは6～8月深刻な降水不足。すでに政府当局は東北部を中心に被害顕在化を確認。洪水への備えから、これまでダムの貯水率を5割に抑制。10月の乾季入りを目前に方針弾力化。例えばシリキットダムの貯水率は9月初で55%に上昇。もっとも依然低水準。9月の降水量次第で来春雨季まで水不足が続くとの懸念拡がり。

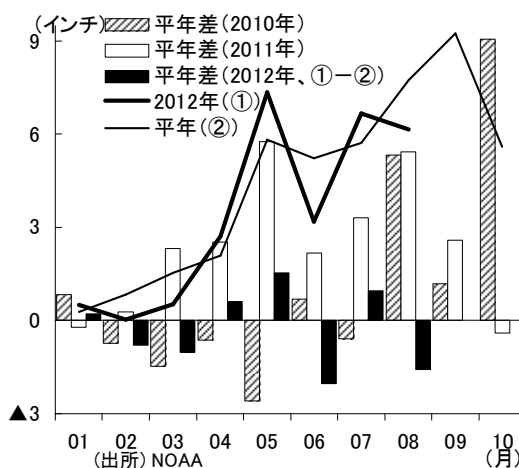
（図表1）主要穀物価格の推移



（図表2）世界のコメ生産量と輸出入



（図表3）タイ北部の降水量（3都市平均）



（図表4）タイ東北部の降水量（3都市平均）

